

# 健康寿命の延伸に向けて

2017/11/9

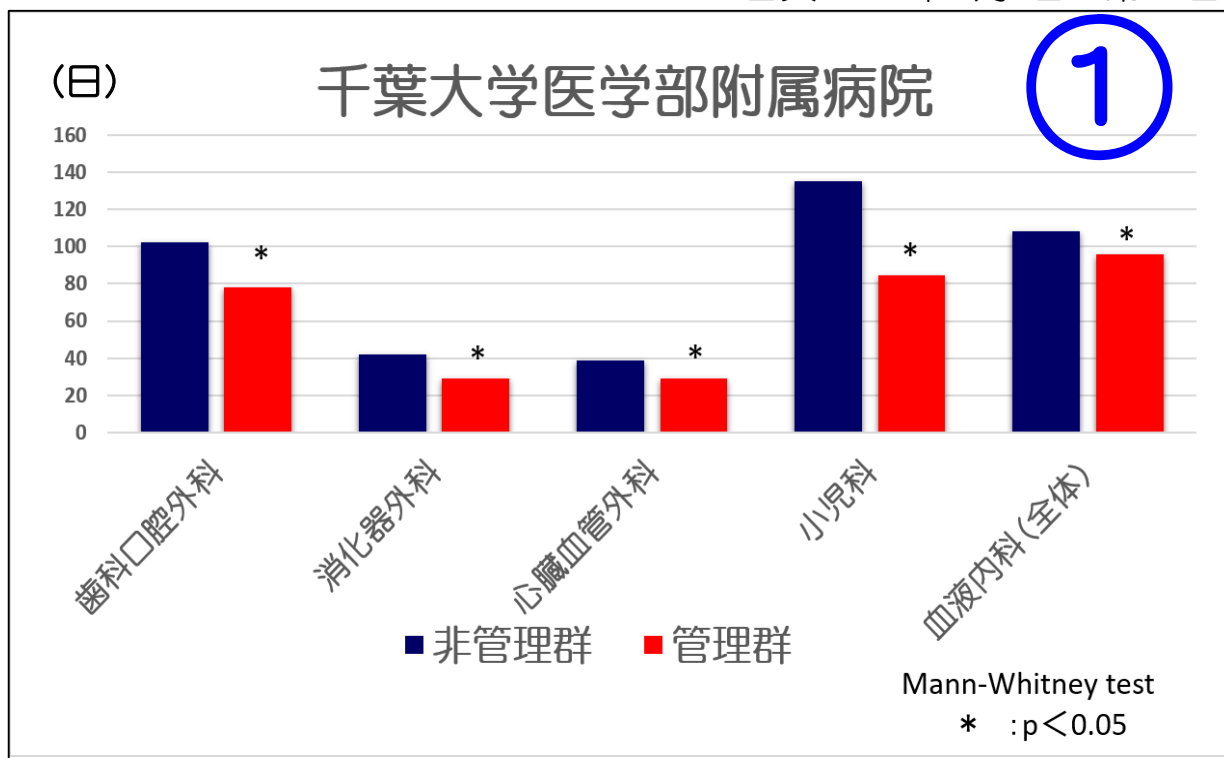
予算・税制等に関する政策懇談会

公益社団法人日本歯科医師会

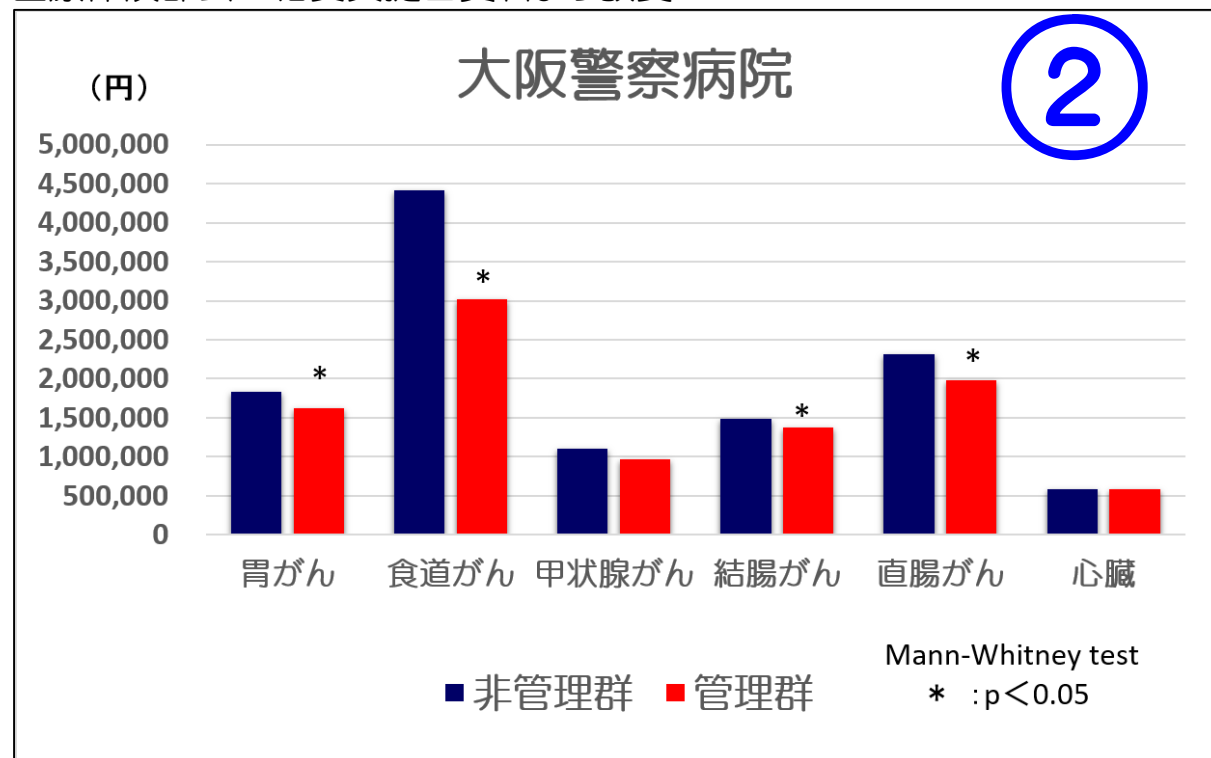
# ■ 歯科医療・口腔健康管理による医療の財政面での効果

## ■ 昨年の政策懇談会提出データから

出典:2014年11月7日 第84回 医療保険部会 堀委員提出資料より改変



歯科による口腔機能管理を実施すると  
在院日数が減少する



歯科による口腔機能管理を実施すると  
入院医療費が減少する

## ■ 骨太の方針2017

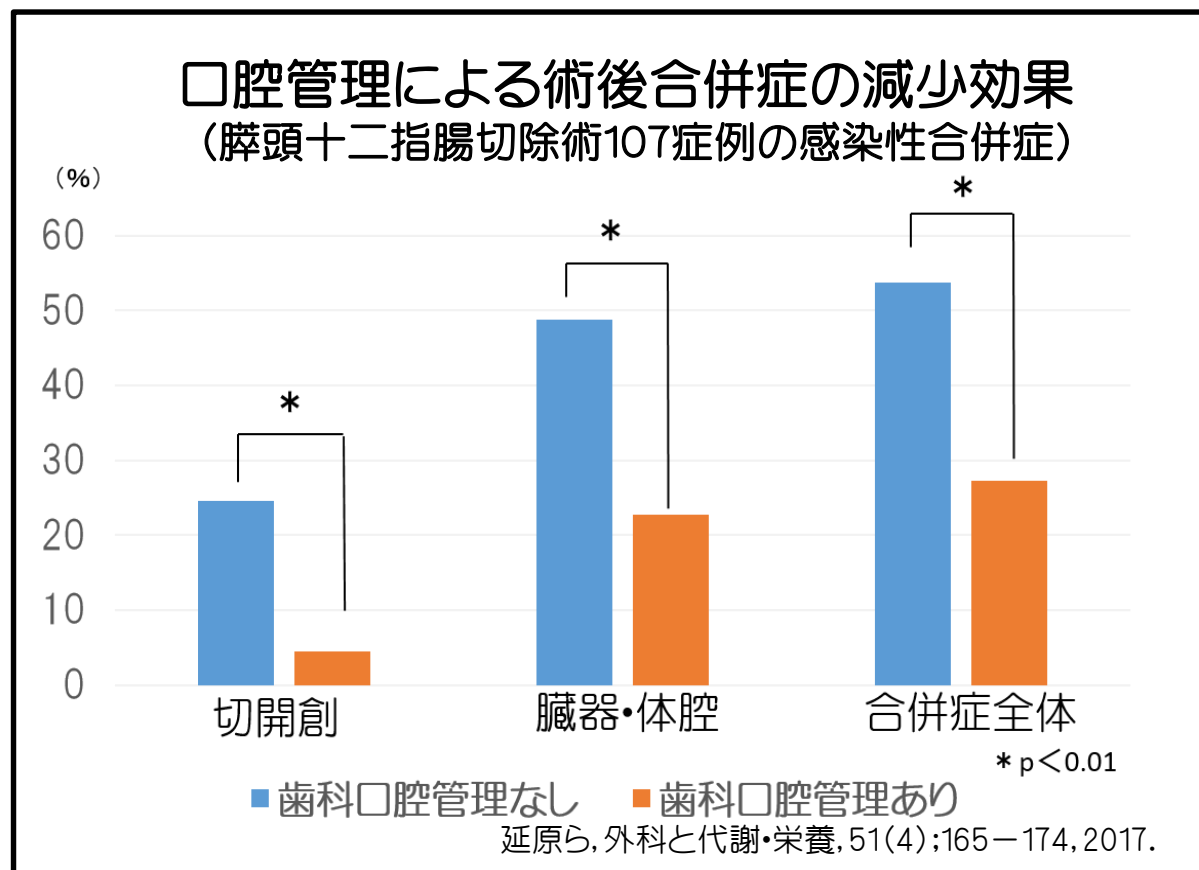
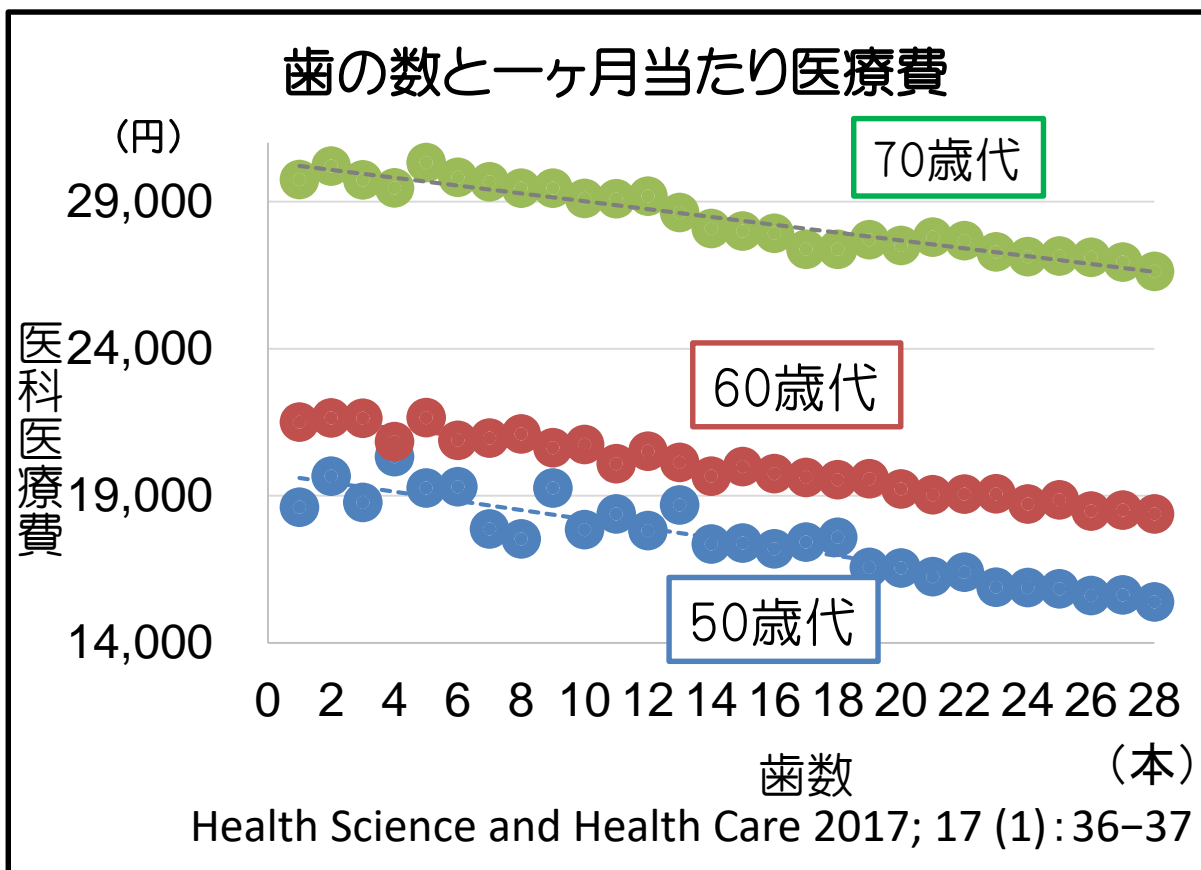
口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む。

# ■ 歯科医療・口腔健康管理による医療の財政面での効果

■ 新しいデータとして

③

④



日本歯科総合研究機構によるNDBの分析結果で、歯の数が多いほど医療費は低いことが認められる(計1,557,553件のレセプト突き合わせによる)

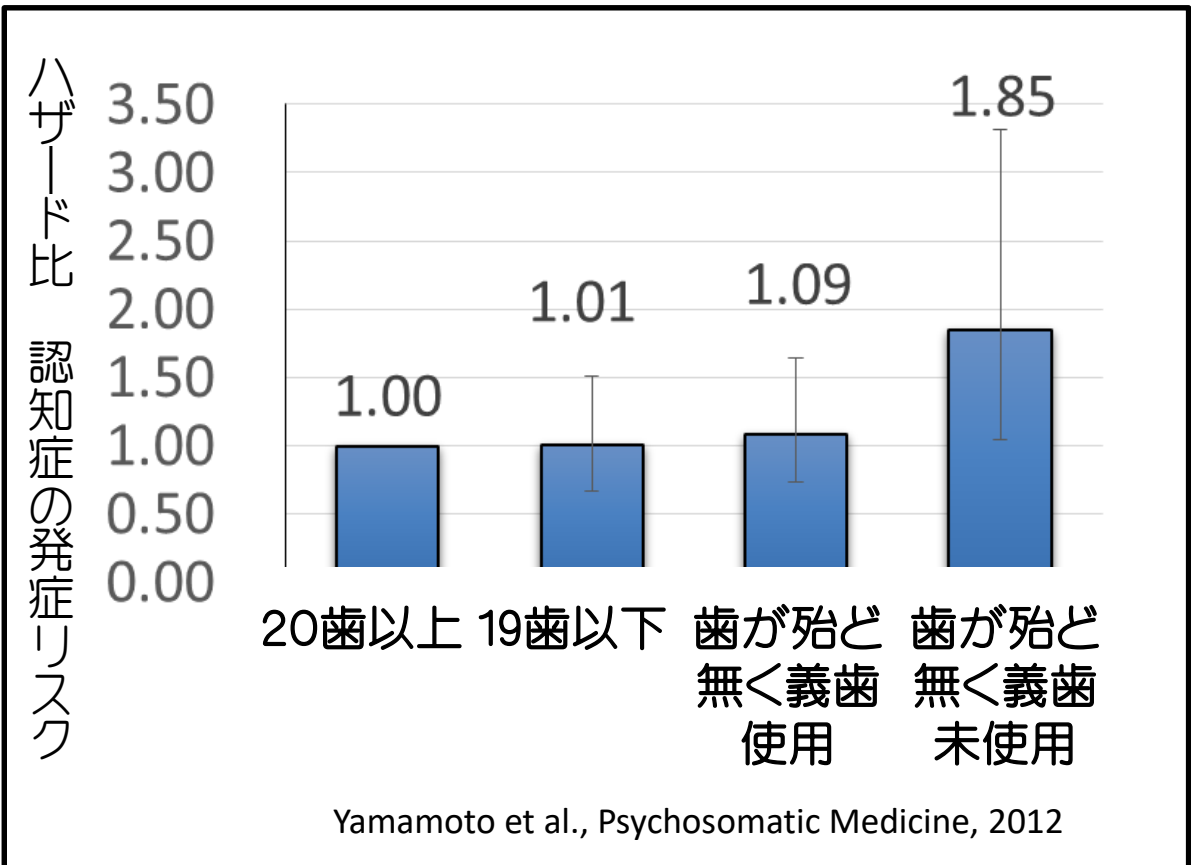
消化器外科領域の感染合併症に関する報告は少なかったが、術後合併症の多い膵頭十二指腸切除術においても口腔管理で合併症の減少が確認された

# ■ 歯科医療・口腔健康管理による医療の財政面での効果

## ■ 認知症への関係について

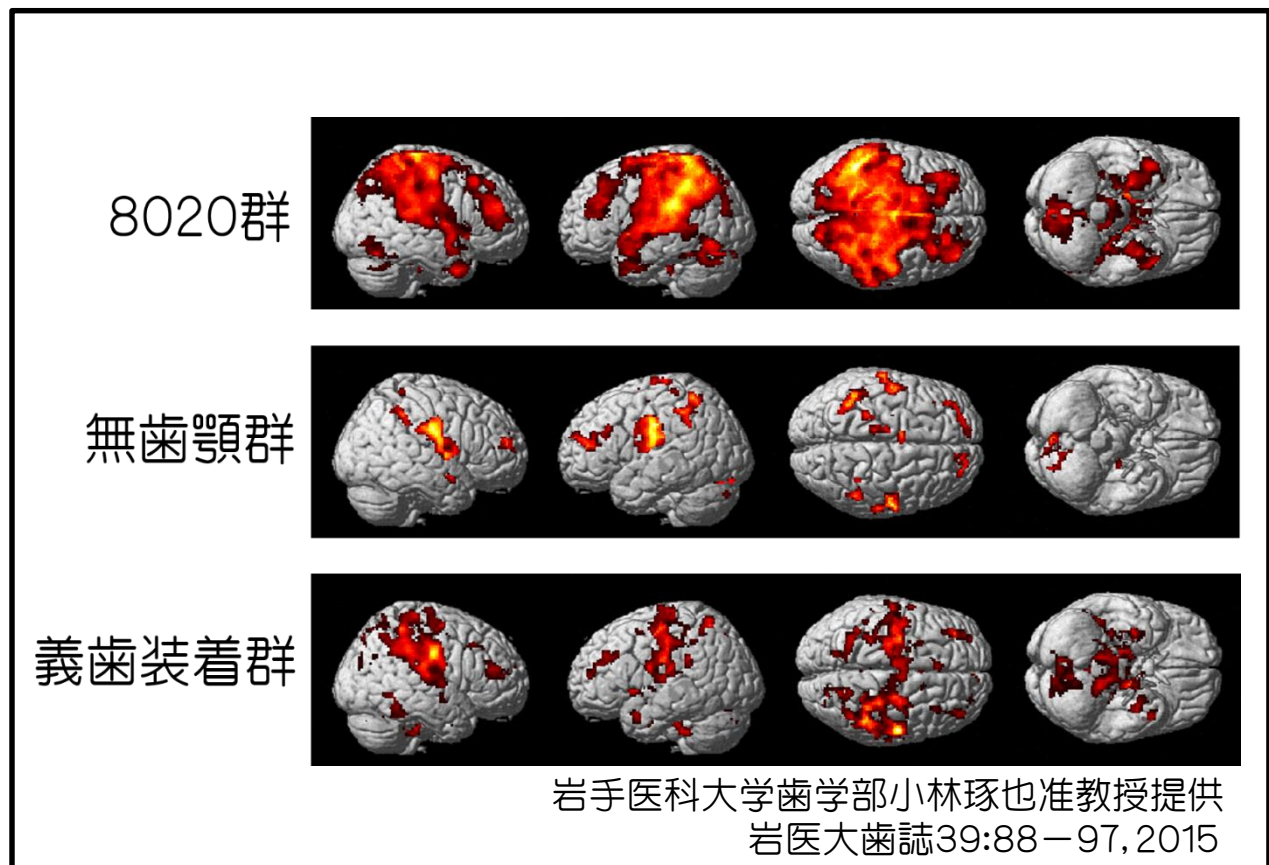
⑤

歯数・義歯使用の有無と認知症との関係



⑥

咀嚼運動時の脳賦活部位



65歳以上の健常者4425名を対象に4年間、認知症の認定状況を追跡。

①歯が殆ど無く 義歯を使用していない人

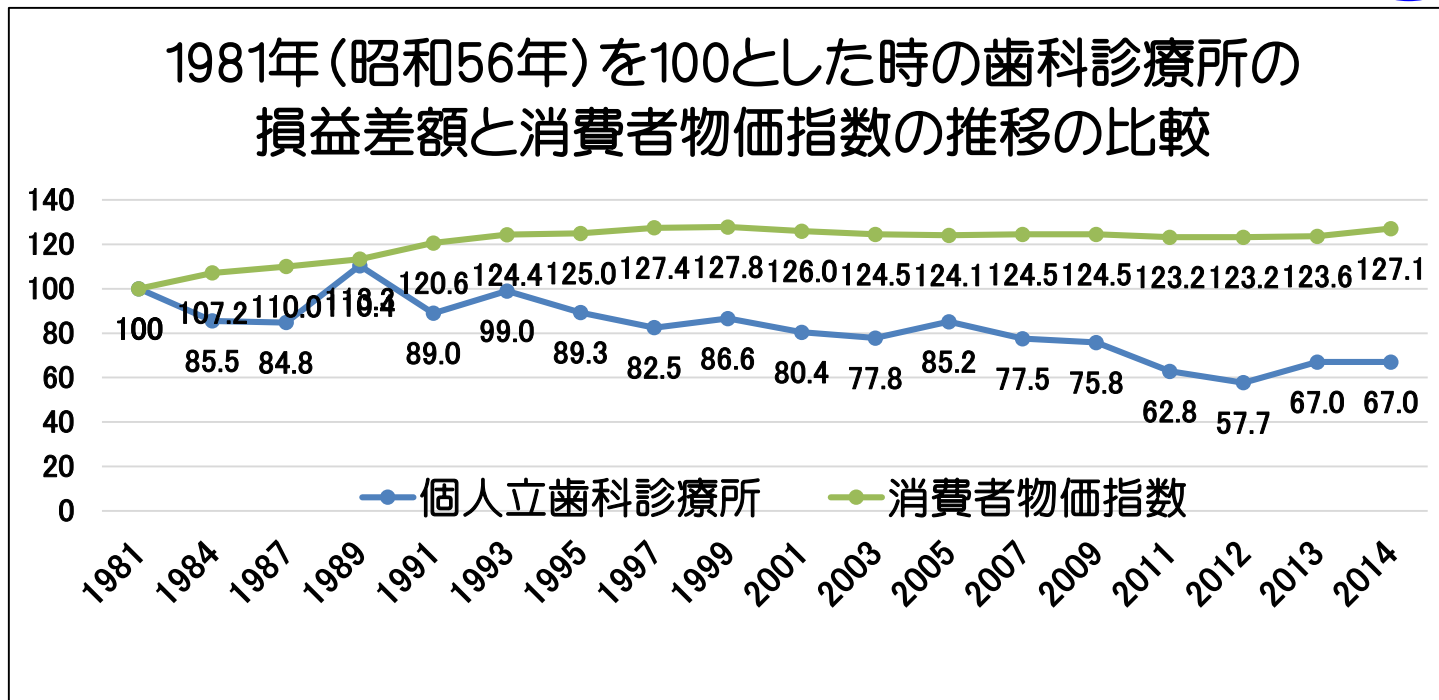
②あまり噛めない人は、認知症発症のリスクが高くなる

歯の喪失により咀嚼時の脳活動は低下することが認められたが、歯科治療による口腔機能の回復で、再び脳を活性化させることが確認された。噛めることが認知症発症リスクを抑えることのメカニズムと考えられる

# ■ 歯科界の抱える現状の課題

## ■ 歯科医療の伸び悩みによる経営の悪化

7



医科、歯科の診療所の損益差額がほぼ同額だった  
1981年から、物価は30%上昇したのに対し歯科診療所の損益差額は30%減少し、人件費を抑制せざる得ないなど経営は逼迫。

## ■ 歯科医療技術評価の低さ

日本歯科医学会タイムスタディ調査 2016

8

項目	参考所定点数	件数	平均時間(分)	技術度	経験年数指数	単位時間人件費(円/分)	人件費(円)
表面麻酔	-	472	2.8	A2	1.167	85	235
浸潤麻酔	-	799	5.5	B2	1.531	112	618
臼歯抜歯手術	260	249	14.2	D1	3.489	255	3,621
術後説明	-	689	4.2	B2	1.531	112	474
診療録記載	-	885	6.4	B1	1.361	99	632
							5,580

日本歯科医学会の診療行為別タイムスタディ調査では、多くの項目で、必要な費用を下回る技術料評価。臼歯抜歯の例では、必要な人件費5580円に対して、保険上の評価は2600円



## ■これから歯科界として目指すもの

長寿社会では、単に長く生きるだけでなく、「食べる」「話す」「笑う」という日常生活の基本的な機能を、人生の最後まで全うすることを目指すべきであり、歯科医療および口腔健康管理の充実を通じて、国民の健康寿命の延伸に貢献する。

## ■具体的目標(要望事項)

(同時改定に向けて)

○必要な改定財源の確保

健康寿命の延伸に向けて歯科界として貢献するための充実  
低迷している歯科医療技術評価、初再診料格差の是正

○在宅歯科医療の更なる推進

○医科歯科連携、多職種連携の推進

(改定以外)

○地域包括ケアシステムに歯科が参画するための医療介護総合確保基金の活用

○病院への歯科医師配置の推進等による、周術期の口腔機能管理の充実と、地域における医科歯科連携の推進

○成人期以降の歯科健診の制度化等、生涯に亘る歯科健診の推進

○歯科口腔保健推進室の昇格やマンパワーの確保による歯科行政の拡充

○「介護保険部会」「がん対策推進協議会」等、必要な審議会への歯科の参画